

春の褒章・叙勲

平成20年春の褒章と叙勲がこのほど発表され、久慈市から4人が受章しました。褒章と叙勲は、業務に取り組み続けて功績をあげた方や、公共的なことに力を尽くした方などに与えられるものです。受章された皆さん、おめでとうございます。

黄綬褒章

一切手類販売業務の功績
中新井田丈夫 さん
 巽町 79歳



昭和58年に創業した田高酒店で郵便切手や印紙を販売し、平成2年から15年間、久慈郵便切手類販売協会会長。運送会社を経営する傍ら家族とともに切手類の販売を続けました。「販売を始めたころ、切手を販売している所はまだ少なかった。みんな喜んで切手を買っていった」と当時を回顧。「当たり前のことを続けてきただけ。これからも続けていきたい」と変わらぬ意欲をみせていました。

瑞宝双光章

更生保護に尽力
柏木睦夫 さん
 小久慈町 70歳



昭和55年から保護司を務め、平成15年から久慈地区保護司協会会長。少年、社会人の更生に力を尽くしました。平成11年には法務大臣表彰も受賞しています。「更生までには対話と時間が必要だが、根っから悪い人間などいない」と笑顔。「何か起きたとき、その地域にも関係がある。更生に向けて地域全体で取り組むことが必要」と地域で助けあう明るい社会づくりを呼び掛けていました。

旭日小綬章

地方自治に尽力
菊地文一 さん
 宇部町 73歳



昭和58年から旧久慈市議を連続6期務め、平成11年から1期副議長。平成18年の合併後は新市の初代議長を務めるなど、24年間議員の責務を全うし、市勢発展と市民生活の向上に力を尽くしました。「人は人をつくる。人は皆、多くの人に支えられて生きている」と、真つすぐな眼差しでその信条を語ります。「今回の受賞も多くの人のおかげ」と信条そのままに、感謝を述べていました。

瑞宝単光章

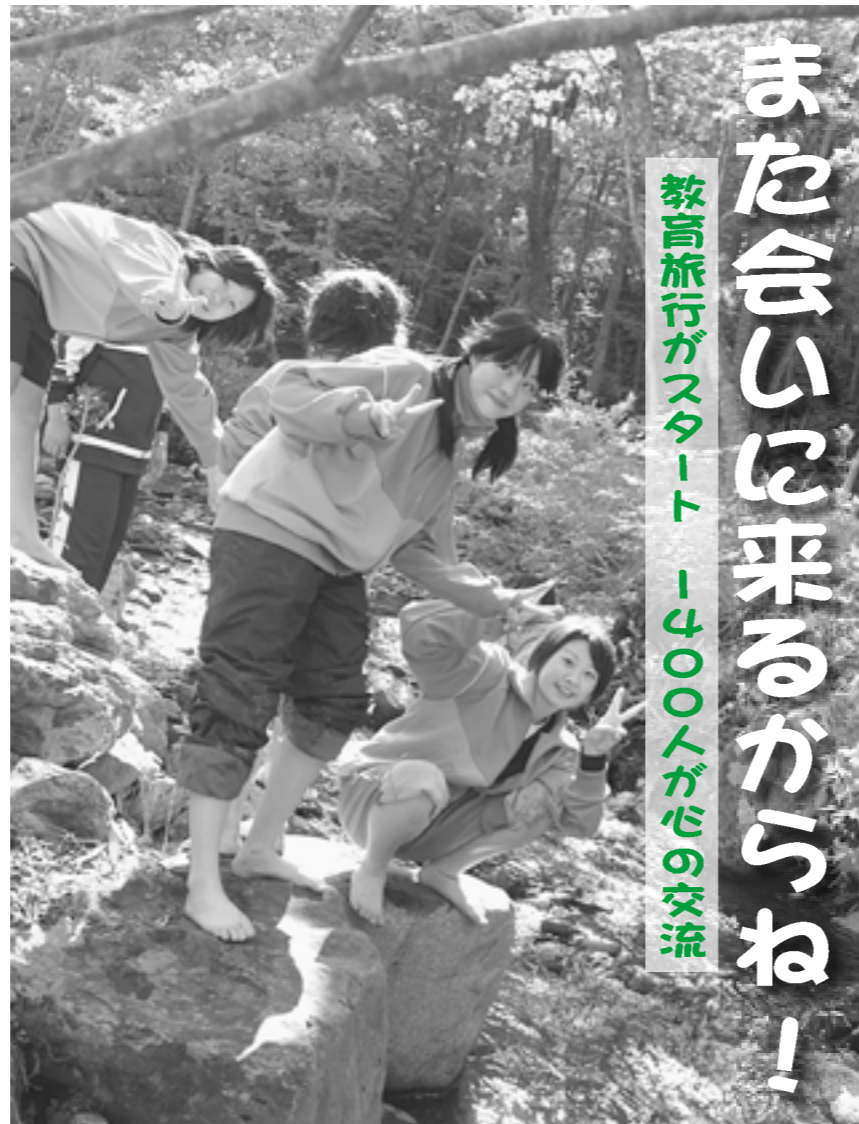
消防活動への功勞
佐々木仁太 さん
 源道 81歳



昭和21年に旧久慈町警防団（現消防団）に入団。昭和59年には第2分団長を務めるなど、持ち前の責任感から約40年間消防活動に取り組みました。昭和58年の久慈大火では命懸けで消火活動。「当時は風も強く空気も乾燥していた。火がついた木がはじけて5メートルも吹き飛んだ」と振り返ります。「火は恐ろしい。始末を忘れないでほしい」とまちの平和に祈りを込めていました。

また会いに来るからね！

教育旅行がスタート 1400人が心の交流



豊かな自然に触れる子どもたち。自然と笑顔が広がります



トレッキングで探検気分



初体験！シャワークライミングって楽しい♪



民泊先でもうちとける子どもたち



かわいい琥珀のアクセサリーが作れてご満悦

1400人が訪れた5月

本年度の教育旅行のスタートは5月8日。5月は教育旅行のピークで計8校、約1400人の子どもたちが久慈を訪れました。見たことのない自然と、初めて会う人たちに緊張する子どもたち。平庭の自然の中で2泊3日の教育旅行が始まります。

心と心を通わす3日間

初日、静かにたたずむやまやまに都会にはない冒険を期待しながらも、まだ不安が大きい子どもたちの表情。まずは平庭山荘で入所式を行いました。入所式の後は富士見平のトレッキングに出発。「ヨイシヨ、ヨイシヨ」と山を登るうちに子どもたちの表情も和んでいきます。

2日目は待ちに待った自然体験。インストラクターに教えてもらいながら、グループ

ごとに林業・木工体験や内間木洞探検、カヌー・カヤック体験などを行いました。初めての体験にキラキラ輝く子どもたちの目。歩いて川を進み、岩のすべり台から川にすべり込むシャワークライミングでは、大声をあげながら楽しんでいました。夜は、初めて会う人の家に泊まるとあって、元気に体験を楽しんだ子どもたちもさすがにドキドキ。それでも「よく来てくれたねえ」の温かい言葉にニコリと笑顔が広がります。普段と変わらない言葉とまなすが、より深く心と心を通わせました。

最終日は平庭高原でフォレストボードの制作や、久慈琥珀博物館で琥珀採掘、アクセサリー作りなどを体験。また、遊びに来るからね。たくさんさんの思い出をつめて子どもたちは都会に帰っていきま

ました。久慈に来てくれたみんな、またいつでも遊びにおいで。